

総合単元名 友達をもっと知ろう 10月～11月 全10時間

めざす子ども 友達のことを互いに理解し合い、助け合う子

ねらい 友達のことを互いに理解し、助け合おうとする態度を育てる。

中心項目 2-(3)
関連項目 2-(2)

単元設定の理由
児童は、交友関係が広がり、集団で遊ぶ機会が多くなる半面、気の合う者同士で仲間をつくる傾向も強くなっていく。自分たちの世界を確保し、楽しもうとし、他の友達を受け入れないこともある。そこで、友人を表面的なもので見ず、より深く、広く見ることのできる目を養い、互いのよさを見つけ、助け合おうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり	
10月	<p>①体育科 10月(2時間) 「鉄棒」 友達のよさやがんばりを認め合い、励まし合いながら技の練習に取り組むことができる。</p>	<p>②<信頼・友情、助け合い> 2-(3) 10月(1時間) 「ないた赤おに」 青鬼の残した手紙を読んで涙を流す赤鬼の気持ちを考えることを通して、友達の素晴らしさに気付く、友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。</p>			<p>①うまくできなくて困っていると、友達がコツを教えてくれたよ。「もうちょっと!」と、励ましてくれたよ。うれしいな。もっともっと練習をがんばるよ。そして、私も友達を励ましてあげたいな。</p> <p>②青鬼は、心から赤鬼のことを考えているな。これから、自分も友達を大切にしていこう。</p> <p>◆○○ちゃんは、あんな得意技があるんだ。知らなかった。すごいな。</p>
11月	<p>③音楽科 11月(2時間) 「音楽発表会にむけて」 友達のよさやがんばりを認め合い、励まし合いながら練習に取り組むことができる。</p>		<p>(◆業間遊び) いろいろな友達と遊びを楽しむことができる。</p>	<p>③分からなくて困っている友達がいたら教えてあげるよ。</p>	
	<p>④体育科 11月(2時間) 「サッカー型のゲーム」 ドリブルやパスをつないで攻めるために、パスを受け取れる位置に移動して攻守できる。</p>	<p>④<思いやり、親切> 2-(2) 11月(1時間) 「拾ったりんご」 温かいものが込み上げてきた時の「ぼく」の気持ちを考えることを通して、人に喜んでもらうすがしさに気付く、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>(★係・当番活動) 自分の活動の様子を見つめ直し、互いに助け合い、協力し合って、活動することができる。</p>	<p>④おばあさんを助けようと思って拾ったのではないが、おばあさんには新聞に投書するぐらい喜んでもらって、ぼくたちは良いことをしたんだなあ。人に親切にすることはこちらまでうれしくなるな。</p>	
	<p>⑤国語科 11月(1時間) 「食べ物のはかせになろう」 自分が調べたことや友達が調べたことを共有し、食べ物についての説明文を詳しく書くことができる。</p>	<p>⑥<信頼・友情、助け合い> 2-(3) 11月(1時間) 「貝がら」 本時 お見舞いの貝がらを手にする「ぼく」の気持ちを考えることを通して、友達と心が通じ合うことの喜びに気付く、友達をよく理解し、認め合い、励まし合おうとする態度を養う。</p>	<p>(■帰りの会) 出された相談について自分にできることは何かを考えることができる。 生活面だけでなく、授業やノートの使い方で光る友達を「今日のキラリ」で紹介することができる。</p>	<p>⑤自分がミスしても温かく励ましてくれた。うれしかった。</p> <p>★自分勝手に活動しているときがあったな。気付きやアイデアを出し合い、協力し合ってがんばるよ。</p> <p>⑥中山くんは、ぼくのことを心から心配して来てくれたんだな。とってもうれしい。ぼくの本当の友達だ。今度はぼくが中山くんのために何かしてあげたい。</p> <p>⑦自分が調べたことを友達が利用してくれうれしいな。また、友達が調べたことで自分も助かった。ありがとう。</p> <p>■困っている友達のために自分にできることをしよう。また、○○くんは、算数の時、うまいやり方を見つけた。見直したよ。私も○○くんのことをもっと知りたいな。</p>	
<p>友達のことを互いに理解し合い、助け合う子</p>					

「道徳の時間」学習指導案

指導者 山内 和俊

- 1 日時 2012年(平成24年)11月22日(木) 第6校時
- 2 学年 第3学年 男子12名 女子13名 計25名
- 3 主題名 わかりあえる友 中心項目 2-(3) 〈友情・信頼, 助け合い〉
関連項目 2-(2) 〈思いやり, 親切〉
- 4 ねらい お見舞いの貝がらを手にする「ぼく」の気持ちを考えることを通して, 友達と心が通じ合うことの喜びに気づき, 友達をよく理解し, 認め合い, 励まし合おうとする態度を養う。
- 5 資料名 貝がら (出典:「みんなのどうとく3年」 学研)

6 主題設定の理由

- 私たちはだれもが人との関わりの中で生活している。この相互関係の生活の中では、相手を理解し、誠実に接することで信頼関係がつけられる。また、そこで得られた信頼し合える友達は、自分が困ったときにも支えになってくれるものである。また、友達との関わりから学ぶことは多く、自己を高めるためにも友達の存在は大切である。ここでは特に、友達のよいところを進んで見つけ、互いに認め合い、励まし合う態度が大切になってくる。

この時期の児童は、気の合う友達同士で仲間をつくる傾向にあり、その仲間は、ちょっとしたことで変化し、メンバーが入れ替わる。そこでは自分たちの世界を確保し、楽しもうとし、他の友達を受け入れないこともある。そこで、友人を表面的なもので見ず、より深く、広く見ることのできる目を養い、互いのよさを見つめ、助け合おうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、1年生の時から単学級ということもあり、友達同士の関わりもよく見られ、お互いのこともよく知りあっている。困っている友達がいたら自然に助け合いができる集団である。アンケートでも「自分が困っている時、友達が助けてくれたことはありますか?」の設問に、84%の児童が肯定的評価を行っていることから言える。しかし、よく知っているクラスメイトだからゆえに、友達に対して新しいよさの発見や相手のよい所に気付くという意識が低いともとれる。このことは児童アンケートでも「今まで気が付かなかった友達のよい所を見つけたことはありますか?」の問いに、肯定的評価が40%であったことから言える。だから、今まで気づいていなかった友達のよさに気付くことやさらによりよい人間関係を築いていくことを目指していきたい。

児童の中には、気の合う友達同士で仲間を作って楽しもうとすることすらしない児童もいる。

- 本資料は、転校してきたばかりでその上言葉になまりがあって友達が作られない中山くんの寂しい気持ちとそれを思う主人公「ぼく」の心の変容が描かれている。友達関係を結ぶには相互の歩み寄りが必要である。中山くんは、病気で欠席した「ぼく」の家へお見舞いの「貝がら」の箱を届け、「ぼく」はその行為の美しさに感激する。人と人とがつながっていく喜びが感じられる資料である。

導入では、事前にとった「友達を作るアンケート」の結果を発表し、友達を作るためにはどんな関わりが必要なのか意識付ける。

展開前段では、「ぼく」の気持ちになり、中山くんとの関わりの中で変化していく「ぼく」の気持ちを捉えさせたい。また、中山くんも友達になろうと努力している点をおさえたい。中心発問では、役割演技を行い、貝がらを手に取り見つめる「ぼく」の喜びを共感させたい。そして、「ぼく」の気持ちを中山くんへの手紙として書かせ、自分の思いをふくらませたい。

展開後段では、友達がいてうれしかったことで心に残ることを出し合い、友達と分かり合い、より深くつながっていこうとする態度を高めるようにしたい。

終末では、友達と協力してやってきた鉄棒や楽器の練習、サッカーの写真を見ながら、友達とつながっていくことは大切だという思いを深めたい。

学習後には、友達のことを考えて行動したり助け合ったりしている児童を帰りの会の「今日の

キラリ”で紹介，賞賛し，自らも友達のために行動していこうとする姿につなげていきたい。

「伝え合う」については，類似点と相違点を比較することにより，自分の考えを深めるという段階である。本時は，役割演技をしたり，ワークシートに書いたりして，ぼくが中山くんとこれからもつながって行こうという気持ちを考える。

- 7 準備物 場面絵，フラッシュカード，貝がらが入った箱，ワークシート

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 アンケートの結果をみる。	○「新しく友達をつくる方法」のアンケートです。その結果を見てみましょう。	○本時につかませる価値(相手を理解しようとする)のランキングだけはふせておき、児童に期待を持たせる。
展 開	2 資料「貝がら」について話し合う。	○何を聞いても、何も話してくれない中山くんのことをぼくは、どんなふうに思っているのでしょうか。 ・どうして話をしないのだろう。 ・せっかく話しかけているのに。 ・ぼくの事がいやなのかな。	○中山くんの事情を知らないぼくは、何も返事をしてくれないことにとまどっていることをおさえる。
	3 お見舞いの貝がらを手にする「ぼく」の気持ちを考える。	○初めて中山くんが口を開いてくれたあと、また中山くんがしゃべらなくなった時、ぼくはどんなことを思っていたでしょう。 ・せっかく中山くんが話したのに。 ・中山くんが話さないわけがわかった。 ・中山くんのことを笑う女子はひどいな。 ◎中山くんからもらった貝がらをながめたりにぎったりしながら、ぼくはどんなことを思ったのでしょうか。 ・きれいな貝がらだなあ。 ・わざわざお見舞いに来てくれるなんて、ありがとう。 [補助発問] ● どうしてぼくは、「今度こそ中山くんとなかよになれる。」と思ったのでしょうか。 ・中山くんがお見舞いに来てくれたから。 ・大切な貝がらを持ってきてくれたから。 ・ぼくのことを大切な友達と認めてくれたから。	○「クスクス」笑う女子と、積極的に感想を伝えるぼくとを対比させる。 ○役割演技をしてぼくの気持ちを想像させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">◎中山くんへの手紙という形でワークシートに書かせ、思いをふくらませる。</div> ★「ぼく」が中山くんをより深く理解し、進んで友達になろうとする気持ちに共感できているか。
	4 自分の生活をふり返る。	○友達がいてよかったと心にのこることはありませんか。	○発言が出にくいときのため学級での事例を二、三用意しておく。
終 末	5 学習をふり返る。	○発表していないランキング第○位は「友達に話しかける、一緒に遊ぼうと誘う」でした。友達は、助けられたり励ましてくれたりします。 そんな友達とこれからもつながっていきましょう。	○これまでの学習プログラムをふりかえりながら、信頼・友情、助け合いについて語る。

貝がら

お見舞いの
貝がらを見つめる
ぼく

これからもずっとなかよくしていきたいな。

- ・あの海で集めた大切な貝がら。
- ・それをわざわざおみまいに。
- ・話ができるとは、とてもうれしかった。
- ・中山くんも、うれしかったんだろう。
- ・ぼくのことを友だちと思ってくれるんだね。ぼくも、そうだよ。

こんどこそ中山くんなかよしに

- ・中山くんのことを笑う女子はひどい。
- ・中山くんがかわいそうじゃないか。

やっとわかった

話をする
中山くん

クスクス

- ・話ができるんだ。
- ・ぼくのことをきらっていないかったんだ。

うれしい

転校してきた、中山くん

- ・なぜ話してくれないのか？
- ・せっかくなかよくなろうとしているのに。
- ・きらっているのかな？

ふしぎ

10 ワークシート

貝がら 名前

おみまいに大切な貝がらを持ってきてくれた中山くん。
そんな中山くんには、ぼくから お手紙を書こう。

今日のふりかえりを書こう。

メモ